



ことば便り

墨田区立押上小学校
校長 島田 和久
ことばの教室 NO.10
TEL 03-3617-6925
令和7年2月3日(月)

暦の上では、2月3日の「立春」を境に春を迎えますが、まだまだ寒い日が続きます。寒い時期の通級は大変ですが、風邪などに気を付けて元気に通ってきてください。

今年度の通級も残り少なくなってきました。子供たちが1年間での自分の成長を実感し、自信をもって進級・進学できるよう、楽しく意欲的に学習できる指導を行いたいと思います。

2・3月の行事予定

2月 4日(火)都難言協 江東ブロック研究会(午後) *午後の指導はお休みです。

11日(火)建国記念の日

19日(水)グループ指導(吃音)(15時~16時半)

20日(木)通級相談委員会(午前) *午前の指導はお休みです。

24日(月)天皇誕生日 振替休日

25日(火)都難言協研究発表会(午後)

28日(金)押上小学校 卒業を祝う会(午後) *午後の指導はお休みです。



3月 4日(火)都難言協江東ブロック研究会(午後) *午後の指導はお休みです。

10日(月)後期 個別指導終了

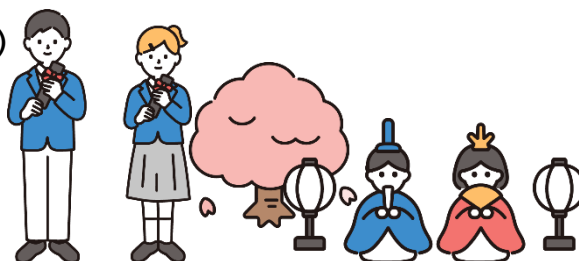
12日(水)おわりの会 (15:00~16:30)

20日(木)春分の日

24日(月)区内小学校卒業式

25日(火)区内小学校修了式

26日(火)春季休業日 始



◎在籍校の先生方へ

「新年度の個別教育課程届」について

次年度も継続してことばの教室へ通級する児童につきまして、新年度の指導に関する資料として「令和7年度個別教育課程(案)」を交換便で在籍校へお送りいたします。ご確認の上、教育課程の作成及び提出をお願いいたします。なお、当教室へコピー1部の送付(親展扱い)をお願いいたします。お手続きをおかけしますが、よろしくお願いいたします。

新年度の通級時間割について

保護者の送迎の都合により通級指導日時が限定される児童につきましては、次年度の「通級日時のお願い」を2月中にお送りいたします。大変恐縮ではございますが、来年度の時間割の編成に当たりまして、専科や体育などと重ならないようにご配慮をお願いいたします。

◆◆「お話」が育む ことばの力◆◆

ことばの教室は、発音の習得や吃音の軽減・受容、言語力の促進、読み書きの習熟などの苦手とする面への支援を行うところです。主訴や指導内容はそれぞれ異なりますが、ことばの教室の教員は、どの子供たちとも「お話」する時間を大切にしています。「お話」は、子供たちのことばの力を伸ばすのに重要な役割を担っています。今回は、私たちが指導の際に気を付けていること、ご家庭での支援のヒントとなる内容をまとめていきます。



★やりとり(コミュニケーション)の原則を意識する

コミュニケーションを成立させるためには、課題をもつ子供だけでなく、やりとりの相手である「大人」の姿勢も大切です。大人がよき聞き手、よき話し手になることで、やりとりをより楽しく、有意義なものにすることができます。ことばの教室の教員は、以下のことを意識して指導の中にやりとりを組み込んでいます。

～コミュニケーションの原則～

- ◎子供の発達や言語レベル、リズムに合わせる
- ◎会話や遊びの主導権を子供にもたせつつ、共有する
- ◎ターン・テーク(順番のあるやりとり)を行う

人と情報や気持ちを共有する楽しさが、やりとりの力の「土台」となります。ここを大事にしながら、語彙や知識の質や量、文法や構文、概念や意図の理解、情報の統合や想起などの力を伸ばす指導をしています。



★1日30分 子供と向き合う「語りかけ育児」のすすめ

日常の中でどのようなことができるのか、おすすめの活動をいくつかご紹介します。

◎「いま」 同じ空間で、同じものを楽しむ。



子供の興味があるもの・注目しているものに、同じタイミングで寄り添います。遊びや絵本の読み聞かせ、テレビを見るなど、普段の生活で行うことに、短い時間でもいいのでじっと付き合います。毎日の暮らしを通して、今、何がどうなっているのかを話して聞かせてあげると、自然にことばの意味や使い方を学ぶことができます。「実況中継」をするイメージです。たとえば、一

緒に間違い探しの絵本を見ながら、「ああ、なかなか見つからないなあ、これは難問だね。ここだと思ったのに違ったね、悔しいなあ」など、大人が自分の気持ちや行動を言語化します。また、「〇〇ちゃんの方が早く見つけたね、端から順番に見たから成功したんだね。」など、子供の行動を言語化してあげるのも効果的です。この「モデル」をことばのシャワーとしてたくさん浴びることで、子供は状況とことばをリンクさせて覚えることができます。



◎「過去」の共通の理解のあるものについて、会話を楽しむ。



過去のことについて話すのは、日常の出来事を理解したり表現したりするのに

とても役立ちます。旅行や行事、普段の買い物など、経験したことを振り返る機会をもつとよいでしょう。家庭の中では、一緒に経験したこと(＝事実がわかっていること)について語り合うと、質問や分からないことへのいら立ちを減らすことができます。「一昨日の土曜日に家族で豆まきしたよ

ね、節分だったから。節分では豆まきをして鬼退治をするんだよね。楽しかった？」と、同じことばを異なる言い方で繰り返して使っていくと、より理解が早まります。



(文責: 笹川)